

e 土層の認識 →てびき (発掘) P.94-103、P.110-116

センターにおける表示方法 (鬼頭 2009_地下研 Wiki)。概ね上位層から No. 付け。土層 No.+ 色 (マンセル値+色名) + 粒度 (ウェントワース 1922) + 混入物 (礫・遺物・炭化物など)。

遺跡ごとの基本土層の把握 (自然堆積層・人為層の区分)。

1. 地層をつくる砂や泥の粒度区分はウェントワースの粒度区分に基づいて記載をする。
2. 粒度・色調により客観的に分けられる地層の境界は「実線」で表わす。
3. 記載者独自の判断により主観的に分けられた地層の境界は「点線」で表わす。
4. ひと目見て地層の状況がわかるよう、断面図には砂層や礫層を模様で示したり、地層の色調などの情報を描き入れる。
5. 断面図には地層を区分 (分層) した人の氏名を記入する。

粒径 (mm)	粒度区分	フズイ (φ) 単位
大 ↑ 256 64 4 2 1 1/2 1/4 1/8 1/16 ↓ 小	巨 礫	11
		10
	大 礫	9
		8
	中 礫	7
		6
		5
	細 礫	4
		3
		2
		1
0		
砂	極粗粒砂	-1
	粗粒砂	-2
	中粒砂	-3
	極細粒砂	-4
泥	シルト	-5
		-6
		-7
		-8
	粘土	-9

図1 ウェントワースの粒度区分



図2 サンド・ゲージ

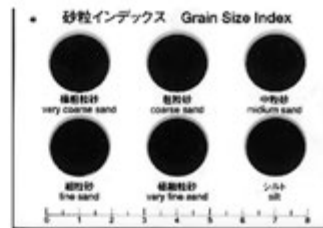


図3 カード型標準試料のインデックス・ケース

←↑粒度区分とその見本

f 表土掘削・包含層掘削 →てびき(発掘) P.104-109

遺跡調査の工程と精度を大きく左右する作業であり、慎重かつ検証しながら進める。重機によって包含層・遺構面まで表土除去。掘削深度・法面は安全確保が第一。トレンチ(試掘坑)にて遺構面数・基盤層の確認。遺跡(調査区)基本土層の設定。包含層は遺構検出面を確認しながらの作業であり、単なる掘り下げではない。



重機による表土掘削



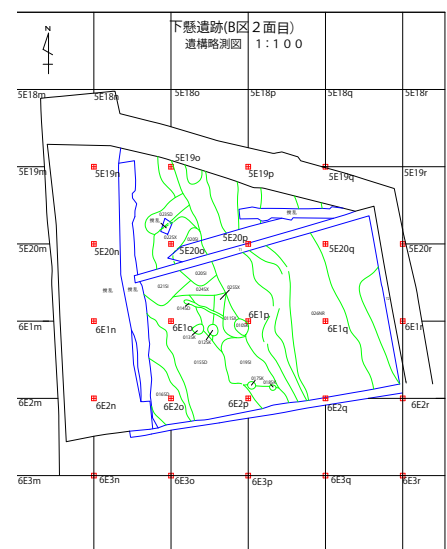
包含層掘削作業

g 遺構検出 →てびき(発掘) P.118-122

適宜測量を実施し略測図(重複関係を表現)を作成。遺構番号付す。略測図は、作業進行段階ごとにPDFファイル化。段下げにより柱穴の確認、および重複関係の確認。掘立柱建物跡についてはこの時点で写真撮影を実施。→てびき(発掘) P.256 遺構検出は遺構を検証する重要な作業であり、その状況は写真撮影記録(場合によっては全景撮影)。→てびき(発掘) P.254



遺構検出作業



略測図(途中経過を示す)

h 遺構掘削・遺物取り上げ

遺構の掘削手順は『てびき』による。

竪穴建物 →てびき（発掘）P.131

掘立柱建物 →てびき（発掘）P.158

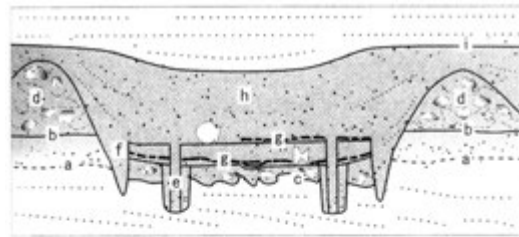
溝 →てびき（発掘）P.201

井戸 →てびき（発掘）P.206

沖積地では重複関係や深度が判然としない事例が多い。そのためサブトレンチによる検証作業も要する場合がある。 →てびき（発掘）P.121-

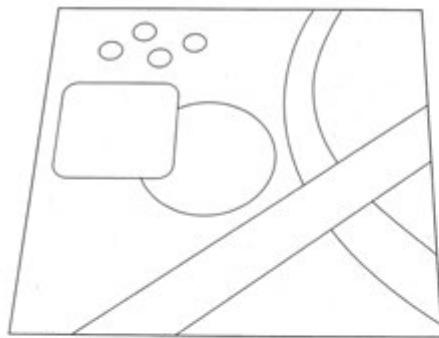
遺物取り上げは出土状況の観察と必要が想定される場合にその記録をとってからおこなう。カード（ユポ）は速やかに作成。 →てびき（発掘）P.128

重要遺物・脆弱遺物の取り上げ・保管ならびに自然科学分析やサンプル採集についてはセンター自然科学分析室と相談して計画的に進める。 →てびき（発掘）P.274

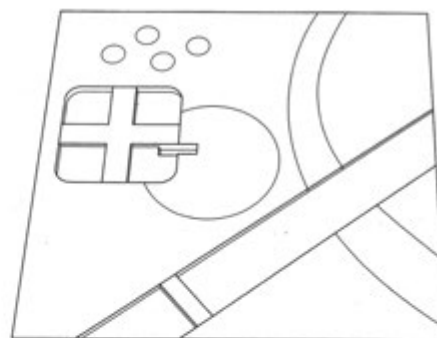


てびき（発掘）
図 89 より
c: 加工面
g: 機能面
(床面)

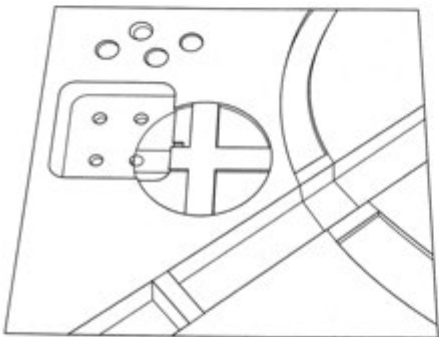
遺構の加工面と機能面の区分と後者の重視（竪穴建物）



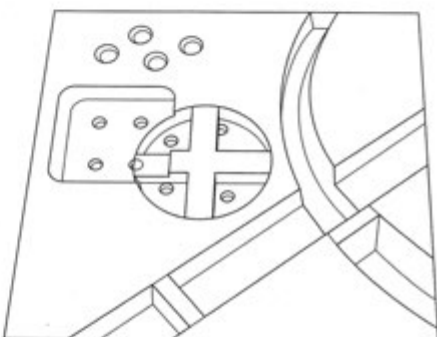
1 遺構検出
遺構の重複関係と埋土の状況などを記録する略測図を作成する。



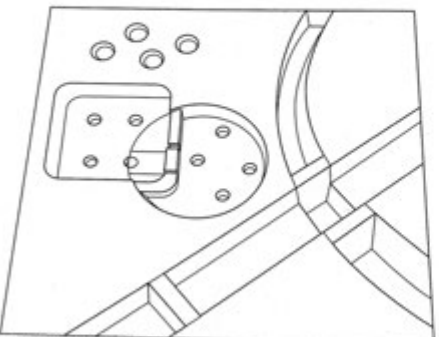
2 遺構の段下げ
土層観察用畦を残して、新しい遺構を一段掘り下げる。このとき、古い遺構をそれより浅く掘り下げれば、遺構の重複関係の表示が可能となる。



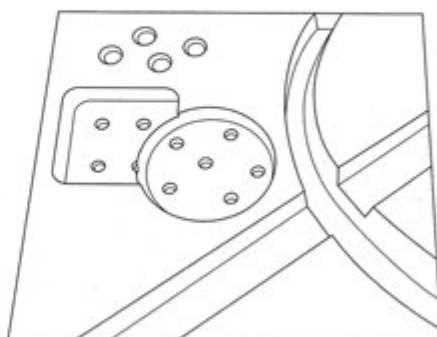
3 新しい遺構の掘り下げ
新しい遺構を掘り下げて、古い遺構の輪郭を確認し、土層観察用畦を設定する。遺構の時期が判明する場合は時期ごとに掘り下げる。



4 古い遺構の掘り下げ (a)
土層観察用畦を残して、古い遺構を掘り下げる。



5 古い遺構の掘り下げ (b)
新しい遺構の輪郭を土手状に残し、4と同様に古い遺構を掘り下げたのち、畦を除去する。



6 遺構の完掘
畦や土手を除去して遺構を完掘する。さらに古い遺構がある場合は、3～6の作業を繰り返す。

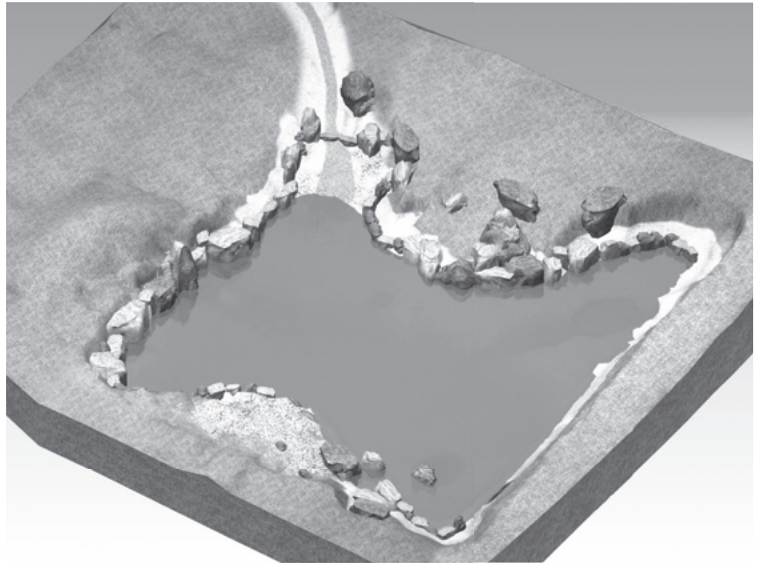
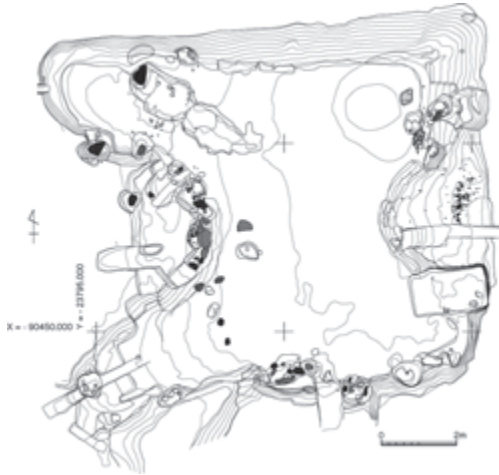
時期の異なる遺構の発掘手順（『てびき』P.126 より転載）

i 遺構記録

遺構の記録方法は電子平板と写真撮影を基本とする。

遺構や遺物出土状況が複雑な場合には、写真測量やレーザー測量の技術を援用し、実感的な記録に努める。

遺構（石室・井戸）の解体や遺物取り上げ状況は動画で記録するのがよい。



名古屋城三の丸遺跡の庭園遺構（平面図とコンピュータ・グラフィックス）

j 遺跡公開

遺跡公開は、文化財保護理念の普及のために必要であり、専門家の見解を得るためにも安全に配慮しつつ積極的に行なうべきである。

現地説明会（記者発表）は関係所管への所定の手続きを経て実施する。

地元説明会は地元（町内会など）への限定的な資料配布により実施。

月報を作成し、掲示および配布する。



地元説明会とその案内

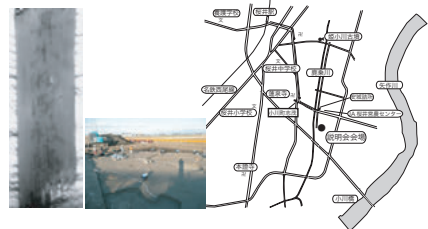
下懸遺跡の地元説明会のご案内

日頃、埋蔵文化財の調査・研究につきまして、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。この度、安城市小川町で発掘調査中の下懸遺跡の地元説明会を、下記の通り実施する事になりましたのでご案内申し上げます。

下懸遺跡は、三河地域で初めて古代の木簡が出土したことで注目されていますが、今年度の発掘調査でも古代の木簡が発見されました。

記

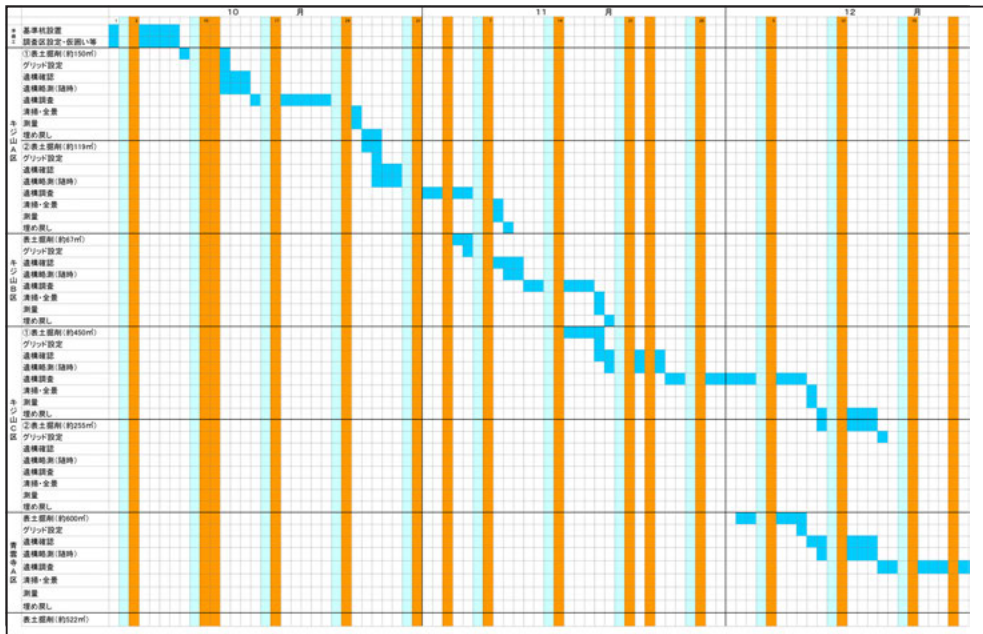
- 1 日時 平成 22 年 2 月 27 日（土曜日）午前 10 時～
- 2 場所 安城市小川町 下懸遺跡調査区
- 3 内容 調査成果の説明、出土品の展示
- 4 主催 (財) 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
電話 0567-67-4163 <http://www.maibun.com>
- 5 駐車場 安城市小川町向田 電話 0566-99-8171
駐車スペースがありませんので、公共交通機関をご利用下さい。
名鉄西尾線 板井下車 徒歩 15 分



C 発掘調査の記録

a 調査工程・計画表と打ち合わせ記録

調査工程・計画表は全体・月間・週間で作成し、PDF データで保管。
週間工程会議や事業者などとの打ち合わせ記録簿も PDF 化。



調査工程表の例

発注者・印		受注者・印		発掘地番					
日	印	平成29年10月18日	本編日	遺	所	役名	事務	公	寓
番	名	平成29年度埋蔵文化財調査事業その1			打	合	せ	方	式
発	注	愛知県埋蔵文化財調査センター			受	注	株式会社 二五衛		
州	郡	愛知県 豊田郡 豊田町 永興町 2-1-1			■	発	掘		
上段表も同じ工程を適用 <input type="checkbox"/> 落石に注意してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 土砂作業を禁止します。 <input checked="" type="checkbox"/> 大気汚染とマシナリ騒音の監視報告を載せてください。 <input type="checkbox"/> 大気汚染は4KOH、マシナリ騒音は40MSです。 <input checked="" type="checkbox"/> 作業員説明会を8月30日に行い、作業員の作業開始を8月1日とします。 <input type="checkbox"/> 了承しました。 <input checked="" type="checkbox"/> 掘削一帯表の書き方を載せてください。 <input type="checkbox"/> 掘削機をマニュアルで稼働をお願いします。また、遺物の損傷は遺構確認に付随してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 了承しました。 <input type="checkbox"/> 駐車場所は1ヶ所確保される予定ですか。 <input checked="" type="checkbox"/> 掘削作業中、近隣住民と関係が良好に保たれる予定です。									
□:発注者 ■:受注者									

打ち合わせ記録の例

b 調査日誌・各種属性表

調査日誌等はインターネットでの書き込みによる。短期間のときは PDF ファイル。

調査日誌については、Web による入力を実施する場合、電子納品時のフォルダーに格納する必要はない。
また調査日誌の出力が必要となる場合は、愛知県埋蔵文化財センターが出力を行う。

遺構属性表などの最低限必要とする項目は『てびき』発掘編 P.247 に掲載。

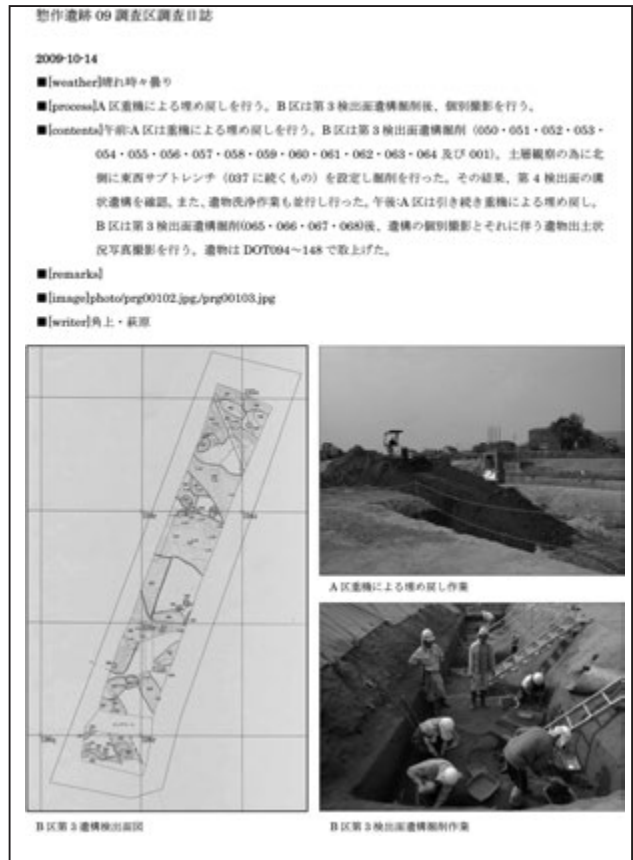
属性表は遺跡の特性に合わせて項目を増やすことができる。

(例：遺構内遺構・重複先後関係・断面図有無など)。

遺物属性表とは、Dot 取り上げ重要遺物の一覧である。



インターネットで書き込む調査日誌



ワープロ・ソフトで作成し PDF 化した調査日誌

↓遺構一覧表

調査区	遺構記号	グリッド	地層	長軸	短軸	深さ	埋土	調査日時	出土遺物	備考	所属遺構	切り合い(古→新)
A	0001SD	1J11f	1面	1.51	0.32	0.04	10YR5/1褐色	2009-07-07				
A	0002SK	1J12f	1面	0.74	0.67	0.08	N3/0暗灰色シル	2009-07-07	土器			
A	0003SP	1J11f	1面	-0.23	0.2	0.02	10YR5/1褐色	2009-07-07				
A	0004SP	1J11f	1面	0.2	0.17	0.04	10YR5/1褐色	2009-07-07				
A	0005SP	1J11f	1面	0.26	0.2	0.04	10YR5/1褐色	2009-07-07				

↓遺物一覧表

調査区	番号	種別	X	Y	Z	場所	日時	時期	備考	層位
09A2	1	土器	-85031.583	-37089.697	-0.733	200SD	2009-06-04	弥生中期後葉		層位不明
09A2	2	土器	-85031.563	-37089.808	-0.753	200SD	2009-06-04	弥生中期後葉		層位不明
09A1	3	石器	-85049.298	-37092.005	0.904	検出1	2009-07-09		石鏃	
09A2	4	土器	-85035.984	-37096.269	0.449	200SD	2009-07-23	弥生中期後葉		
09A2	5	石	-85038.644	-37096.464	0.554	200SD	2009-07-24			